

令和7年度第1回武蔵野市農業振興基本計画策定委員会 会議要録

1 日時 令和7年6月11日（水曜日）午後2時28分

2 場所 武蔵野市役所西棟8階813会議室

3 議事

- (1) 委嘱状交付
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長及び副委員長の選出
- (5) 策定委員会の運営等について
- (6) 本市農業の現況と経過について
- (7) アンケート調査の実施と設問について
- (8) その他・事務連絡

4 出席委員

副委員長	長 後藤 幸治	委	員 佐々木 憲一
委員	長 淵野 雄二郎	委	員 榎本 吉恭
委	員 森田 茂紀	委	員 中村 健二
委	員 八島 新平	委	員 田川 良太

5 欠席委員

委	員 相原 宏次	委	員 平野 優美
---	---------	---	---------

6 委員以外の出席者 市長 小美濃安弘

7 事務に従事した職員

課長 小池鉄哉
 課長補佐 合田宇宏
 主任 助川瑞樹
 主任 森麻衣子
 会計年度任用職員 浅賀恵津子

(1) 委嘱状交付	
	産業振興課長より、挨拶及び会議中の注意事項等について、説明を行った。 委員に対し、委嘱状の交付を行った。
(2) 市長挨拶	
	[市長挨拶]
(3) 委員紹介	
	各委員自己紹介を行った。
(4) 委員長及び副委員長の選出	
	互選により、委員長に淵野氏、副委員長に後藤氏が選出された。
(5) 策定委員会の運営等について	
	事務局より、傍聴、今後のスケジュール、運営体制についての説明を行った。
(6) 本市農業の現況と経過について	
委員	資料に基づき、事務局より説明を行った。 [質疑応答] 都市型認定農業者の基準について、伺いたい。
事務局	都市型認定農業者については、1アール当たり所得が10万円というような基準が一つある。その基準を満たす、あるいは満たすことを目指せる農業者については、経営改善計画を作成し、認められた方が都市型認定農業者になる仕組みである。

委員	<p>武蔵野市独自の都市型認定農業者という取組において、行政としてどのような支援があるのか。</p>
事務局	<p>認定農業者等経営改善支援補助金がある。認定農業者については年額66万円を上限、都市型認定農業者については年額33万円を上限とし、経営改善に資する事業についての補助を行っている。</p>
委員長	<p>農家数、あるいは農業従事者数が具体的に示されたが、農家数のカウントをするときの基準は何かあるか。</p>
事務局	<p>特段面積や収入・所得の要件は設けていない。 市内に住所を有し、生産・販売を行っている農家や、市外在住で市内に農地を有している農家を市内農家と位置づけている。</p>
委員	<p>年代別のグラフを見ると、比較的若い年代の比率が少し落ちてきている。 高齢になってもできるという意味での農業の特徴はありつつ、当該委員会での議論をするうえで念頭に置かなければならないと思う。</p>
委員	<p>現行計画において、「市民農園は、一部利用者のマナーの悪さやモラルの低下が著しく…」というのは、具体的にどんなことがあったのか。</p>
事務局	<p>1世帯1区画での利用が前提だが、複数の区画を同一人物と思われる人が耕作をするといった事例がある。市としても対策は講じているが、ゼロにするのはなかなか難しい。 その他、利用開始承認前に耕作を始めるケースや区画外の耕作、喫煙、農作物の盗難、ごみの不法投棄や路上駐車等の問題がある。</p>
委員長	<p>体験農園は1件ということだが、運営状況等はいかがか。</p>

事務局	<p>市内の西側に農家が開設している体験農園が1件ある。特段うまくいっていないという話は寄せられていない。</p> <p>農家から、体験農園を開設してみたいという相談もあまりない。</p>
副委員長	<p>本市では、直売、給食への出荷、摘み取りといった形で販売をされている方が多い。</p>
委員長	<p>ボランティアはどうか。</p>
副委員長	<p>なかなか進んでいないところもあるが、個人的にお願いされている農家も少しずつ増えている。</p> <p>ボランティアに関しては、農業委員会としても課題認識をしている。</p>
委員長	<p>農業公園の開設については、武蔵野市では難しいのか。</p>
事務局	<p>農業公園は、現在市内に2か所あり、NPO法人が活動の委託を受けて運営をしている。</p> <p>ただ、農業公園は、緑のまち推進課という公園担当の部署が管理をしている状況である。</p>
委員長	<p>農福連携事業についてはどうか。</p>
事務局	<p>農福連携については、産業振興課が主導して検討をしている。</p> <p>試行事業として、福祉施設の方が市内農地で農業体験をするという位置づけで実施をしている。</p> <p>農福連携は、受入農家の意向が重要となってくることから、アンケートでも意見を伺いたいと思っている。</p> <p>福祉事業者や作業所等については、昨年度農福連携に関する意向調査ということで、産業振興課から障害者福祉課の協力も得ながら実施をさせていただき、意向確認を行ったところである。</p>
事務局	<p>[アンケート内容の説明]</p>

委員	1 番に個人商店をまた持ってきた理由は何か。
事務局	特段の理由はない。
委員	1,500のサンプルを無作為抽出ということで良いか。
事務局	そのとおり。
委員	住まいのバランスを取ることは可能か。
事務局	地域での人口比率を加味した形で抽出が可能と聞いている。
委員	<p>市民アンケートの回収率は、どの程度を目指しているのか。回収率を上げるための特別の工夫をしているのか。</p> <p>外国籍の市民の方が対象になるということも考えられるが、対応は何か考えているか。</p>
事務局	<p>市民向けについては、例年30%台後半から45%ぐらいを推移しているのでは、40%前後の回収率になるのではないかと想定をしている。農家向けについては、8割を超える回収率を想定している。</p> <p>少なくとも前回令和3年度以前のアンケート調査については、何か工夫をしてきたという記録はないが、今回は、7月1日号の市報掲載に加え、更なる広報を検討している。また、回答のしやすさを重視し、初めてインターネットからの回答をできるようにしたいと考えている。</p> <p>外国籍の在住市民への配慮については、実際にアンケートを送付するまでに何ができるか検討したい。</p>
委員長	武蔵野市には、技能実習生はいるか。
委員	本市の場合は、研究職や企業に在籍している人、自身で開業している人が多く、いわゆる技能実習という形態はほとんど見られない状況である。

	<p>外国籍の方は約4,000人おり、ここ1年間でも1,000人ぐらい増えている。</p>
委員	<p>どこの国の人が多いのか。</p>
委員	<p>中国、韓国、米国、台湾、アメリカ、ネパール、ベトナム等が多い。</p>
委員	<p>当該計画は、上位計画、中位計画を基に検討されており、前回の計画の内容や効果の有無の検証を踏まえて、計画を策定することになると思うが、その点はいかがか。</p>
事務局	<p>上位計画の産業振興計画では振り返りや検証をやっており、明文化されている。農業振興基本計画については、その記述が今まで全くない状況で動いてきたのは事実であるが、行政委員会である農業委員会では、毎月様々な議論をしている状況もあり、策定委員会で検証するのは重複する部分もあると考え、条例についても記述をしなかったという経緯がある。</p> <p>ただ、これまで実施してきた施策に対しての効果や掲げてきた目標値や目標に対しての成果については、計画を策定するうえで避けては通れない不可欠な部分であるため、次回以降、そういった部分も触れながら今回の計画策定には反映をすべきと考えている。</p>
委員長	<p>アンケートへの意見については、6月20日までに提出していただきたい。</p> <p>環境配慮の項目において、「生分解性マルチ」が入ったが、有機認証の基準から外したという例もあるので、調べておいてほしい。</p>
(8) その他・事務連絡	
委員	<p>農業者の視点として、暑さというのが年々大変であり、年齢が上がるに連れて体力も落ちてくるので、今一番課題と考えている。</p>
委員	<p>夏の猛暑については、作物も今後変えていかなければ</p>

委員	<p>ならない局面まで来ている気がするが、実態としてはどうか。今後どのように変えていくのか等具体的にされていることはあるのか。</p> <p>農協では、酷暑対策に耐え得る品種の選定の研究を始めたところである。あとは、種苗会社が開発していくことだと思うが、それができないと難しい。</p> <p>水についても、都市部では井戸が簡単に掘れず、水道水を使用するため、その負担も大きい。</p>
委員	<p>東京の梅雨明けは、7月18、19日あたりで、7月上旬の梅雨のときにニンジンの種を播いて、発芽させるというのが例年だったが、昨年あたりは7月1日から毎日35度以上だったため、ほとんど発芽が難しかった。</p> <p>黒い被覆資材等、新しいものが発売されて、使用しているが、なかなか難しい。</p> <p>降雨についても、ゲリラ豪雨や台風と極端な天候のため、困っている。</p>
委員	<p>過去に東北でブルーベリー栽培をしていた。冷涼な環境を好む作物ではあるが、東北でも暑いので、工夫はすれども、予定数量にいかなかったことがある。</p> <p>例えば、愛知県が産地といわれるイチジクを取り入れてみようという話もあった。レモンについても、東京であればできると考えている。これらは単価も良い。</p> <p>今後は南が産地の果物等も出てくるのではないかと、消費者として思っている。</p>
副委員長	<p>野菜を作っていくうえで、種を播く時期が変わりそうで変わらない、この時期にまかないとできない、という農家側の不安もある。となると、資材でどうにか頑張るしかないものの、経費がかかる。販売する頃には、価格に転嫁しづらい、消費者に対する説明がしづらいことが課題ではないかと認識している。</p> <p>暑いときは作業時間をずらす等、命を守る行動が必要とは思いつつ、どこかで無理をしなければならないという負担もあることも課題と感じている。</p>
委員	<p>武蔵野市でも獣害が増えているが、その状況を知らな</p>

